

市川シビックロータリークラブ会報



世界に希望を生み出そう

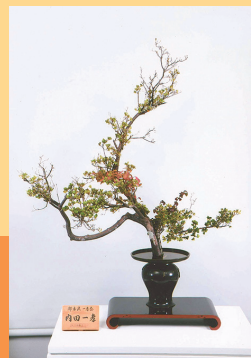
2023ー2024 年度

会 長：井上喜久男

会長エレクト：長谷川泰士

副 会 長：大塚 恵二

幹 事：宇田川純一



都古流一孝会 内田一孝作

◆出席委員会

鈴木委員

■会員総数：27名

出席計算に用いた会員数
24名

■出席会員数：19名

■出席率：79.1%

■前々回補正出席率：一

■メイクアップ：一

●ゲスト

千葉県議会議員
守屋 貴子 様

●ビジター

なし

■本日のプログラム

第1332回 2024.4.15

合同例会

【千葉東RC】

(ホストクラブ：千葉東RC)

■次回のプログラム

第1333回 2024.4.22

ゲスト卓話(市川市長)

第1331回 2024.4.8 例会報告

会長挨拶

井上 喜久男 会長



皆さん今晚は。

先日の上野公園の花見移動例会はまだ桜が開花してませんでした。残念でしたが例会は楽しかったです。

昨日5年ぶりに千鳥ヶ淵と、靖国神社の桜見物に行きました。ソメイヨシノは満開で多くの人が集まり大混雑してました。靖国神社は依然と比較して屋台が少なくなりましたが、グループごとに宴会が盛んでした。隣接の千鳥ヶ淵戦没者公園は千鳥ヶ淵桜見物に比較して参列者は少なかったです。外地で亡くなった無名戦士に黙とうとお花を手向けました。

本日は、孫の市川学園入学式に参列しました。親子三代お世話になりますので感激し、今年は桜が満開でしたので写真を撮ることができ、健康であったことに感謝いたしました。

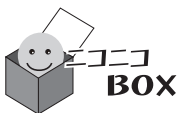
本日の卓話は千葉県議会議員・守屋貴子様です。よろしくお願いいたします。

幹事報告

宇田川 純一 幹事

来週4月15日(月)は、千葉東RCとの2クラブ夜間合同例会となっております。

ご出席される方は、幕張ホテルニューオータニの2階であります。点鐘は18:30になります。よろしくお願い申し上げます。



中村(裕)委員長

●孫が市川学園に入学し、親子三代で入学式に行きました。桜が満開でした。 井上会長

●守屋貴子県議、卓話よろしくお願いします。 宇田川幹事

内田／上條／越永／田中／竹内／
辰田／山崎／古山／大塚／長谷川／
佐藤／鈴木／宮本／渡邊／小池／
板橋／中村(裕) 各会員





卓 話

千葉県議会議員
守屋 貴子 様

皆様こんばんは。

千葉県議会議員の守屋貴子でございます。本日はこのような機会をいただきまして、大変感謝をいたします。

地域への貢献そして社会奉仕をされている格式と伝統のあるロータリークラブで卓話をさせていただけるとのお話をいただき緊張をしておりますが、今日は私がどうして政治家になったのかについてお話ししたいと思います。

私は、先月誕生日を迎えまして56歳になりました。

2007年39歳の時に市議会議員選挙に挑戦し、当選させていただきました。以降、2期8年活動をしてまいりました。その後2015年に千葉県議会議員選挙に挑戦をし、初当選そして2期7年活動をさせていただきました。一昨年、市川市の市長選挙があり、ご承知の方もいらっしゃると思いますが、挑戦をさせていただきました惜敗をいたしました。本当にたくさんの皆様に応援をいただいたにもかかわらず、私の不徳の致し所で、当選することができませんでした。一年間本当に熟慮に熟慮を重ね、翌年、去年になりますが、県議選に出馬し、当選、現在3期目の活動を全力で思う存分させていただいています。

応援いただいている皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

活動の中で、私がいつも心がけていることは市民の皆様により添いながら、一番身近な存在として、活動していくこと、そしてその声に光を当て、政策として実現していくことです。また日頃から顔の見えるお付き合いの中で信頼関係を築いていくことも大切にしています。

活動の内容としては、やはり子育て支援や少子高齢化対策、障がい者施策、といった福祉関係を中心に市川の子供たちの教育の充実や、いつまでも学び、学習していける生涯学習の充実、それから市川の街づくりとなる都市基盤整備や、防災対策、地区別では行徳のかかえる臨海部

地域の課題であったり、中心部の交通渋滞の問題、それから北部地域に対しては緑の保全や農業の振興保全など活動してきました。同時に働く皆様の環境改善や女性を含む多様な方々の地位向上や社会における雇用といったことにも着手してきました。本当に中身の詰まった充実した活動を皆様のご協力のもと、進めてこれたと思っています。

さて、そんな私ではありますが、最初から政治家を目指していたのかというと全くそんなことはありませんで、むしろ全く逆、政治と無関係でありたいと思っていたタイプではなかろうかと思っています。そこで、私がなぜ、この道を進んだのか、政治が必要と感じたのかをお話できればと思っています。

市政報告や演説会はよくやりますが、こうして自分のことを話すということはあまり少ないのでありまして、うまく伝えることが出来るのかとても心配ですが、なぜ私が政治の道を選んだか、政治が大切と思ったのか、私の過ごしてきた日々のことについて、しばらくの時間お付き合いいただければと思います。

私がこの道に進んだのは、紛れもなく政治家であった父・小岩井清が大きく影響しています。

私は1968年3月5日、市川市の大洲に小岩井清・浩子の第1子の長女として生まれました。

私の父・小岩井清は1935年5月31日に東京市城東区、現在の東京都江東区に小岩井家の長男として生まれました。

東京大空襲で、壮絶な戦争の体験をしたようでありました。あまり、思い出したくない過去だったのか、私や妹にはあまり自分が経験したことを多く語ったことはありませんが、その経験が政治の道につながったんだということは、父の背中を見てわかっていました。

そんな父ではありますが、36年間、市民の

皆様に支えられて、衆議院議員1期、県議会議員3期、市川市議会議員4期、努めさせていただくことができました。父の人生に関わっていただけた全ての皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

母はどんな人だったかという、家庭と子どもを第一に考えていた人だったと思います。

そんな父と母との間に生まれた私がどんな子どもだったかという、先程申しあげたように、小岩井家の長女として1968年3月5日に市川市大洲に生まれました。3年後の1970年5月に妹が生まれ、2人姉妹であります。

子どもの頃、幼稚園の頃の自分はというと、内弁慶で引っ込み思案な性格でした。

昨今では、不登校ということに対する考え方や自治体の取り組みも拡充されていますが、私は早々に幼稚園の頃、それを経験していて、教室には入れず、当然お友達の輪の中になど入れるはずもなく、毎日園長先生のお部屋への登園、遊ぶのも園長先生とでありました。

小学校に入ってもその基本的な性格は変わらず、**お友達とのお付き合いがあまり上手でない、協調性もない、そして学校が苦手、勉強も苦手でした。**

でも、体だけは丈夫だったので、小学校時代は学校が苦手だったのに、休むこともできず皆勤賞をもらってしまうというなんともアンバランスな思い出が残っています。

中学校前半はバレーボール部・中学校後半と高校時代はブラストバンド部に所属し、部活に打ち込む毎日で、少しずつ私の中に変化が出てきます。部活を通して、友達がたくさん出来るようになりました。今思えばこのときが人とつながること、人との付き合い方が変わっていった、私の転機だったのではないかとと思っています。

その後は、松戸にある聖徳大学、当時は聖徳学園短期大学に入学し、卒業後、清水建設に入社し、7年間、花のOL時代を過ごしております。

さて、父と私の過去をざっとお話させていただきました。

私と父はどんな親子関係だったかという、物心をついた頃から、私は両親に対して、特に父に対して反発するようになって行きましたし、政治は父の仕事、私はそことは係らない、政治活動とは遠いところで生活をしていきたいとずっとそんな風に思いながら過ごしてきました。というわけで、私は絶対政治に関係ない世界で暮らしたい。サラリーマンと結婚する。というのが、いわば願望のようになっていました。

では、そんなに反発をしていた私がなぜ、父と同じ政治の道に進んだか。

それは、結婚・出産・子育てを経験したこと、かけがえのない2人の子どもたちがその政治家を目指すきっかけ、原動力になりました。

私は念願通りサラリーマンと結婚しました。同じ会社に勤めている男性だったので、全国を転勤する、いわゆる転勤族でした。私は連れ合いと共に全国各地を渡り歩くようになります。生まれて初めて生まれ育った市川を離れた瞬間でありました。そして、転勤先で2人の子どもを出産し、子育てをするようになります。四国や九州を転々とする中で、行く先々で行政サービスが大きく違っていることに気が付きました。そして、周りに知人がいなくて、方言が強い言葉が分からなかったり、地の利が判らなかったりする中で子育てをすることがいかに大変であるか、市川では感じることのなかった不自由さをまざまざと体験しました。そして、そんな私を行く先々の行政の方々が様々なかたちで私達親子を支えてくれました。

初めて、生活する中で困ったこと、政治の大切さ、かかわりの深さをここで知ることになりました。

いかに政治というものが、その地域に暮らす人たちのために大切なのか、行政サービスが各地域で違うということは、そういう地域性を反映しているものだということを実体験として肌で感じる事ができました。そして、それに助けられる人々がたくさん存在するということも。

ふとあるとき、私が暮らしてきた市川は、生まれ育った市川の市民サービスは

どうなっているんだろうか、ここよりいいのか悪いのか。と思い始めます。

そこから様々なことを調べたり、勉強したりし始めました。

生まれ育った市川を外から見ることに、市川にはいいところがたくさんあることに気が付いた一方で、まだまだ課題もあるということも痛感いたしました。

そのことから少しずつ自分の気持ちの中に、もしかしたら、父のようにはなれないかも知れないけど、もっともっと身近な、生活に密着した事柄についてなら、私に出来るのではないかと。この各自治体で経験したことを自らの政策として市川で実現していくことができるのではないかと。思うようになっていきました。

そして、大好きな市川のために、そして、そこに暮らす全ての方のために頑張りたいと決めたこと、まさにここが私の原点、政治の道へ進もうと決心した瞬間だったと思います。

私の願いは、市民の皆様と手を携えて、市川をもっともっと良くしていくことです。

どこに住んでいても同じ暮らしが出来るようにしていくことです。

今回皆様に県政に復帰させていただきました。市民と市川市、を千葉県につなげていくパイプになれるようにこれからも全力をあげてまいりたいと思います。

政治は

実は生活に大変密着している、そしてそれぞれの生活実態にあった行政サービスを各自治体が行なって行かなければならない。そのために民意を届ける役割を持つものが必要になってきます。

私は今までの自分の来た道を振り返ってみると、様々な場面で、例えば、職場で、日々の暮らしの中で、困ったことや相談事が起こらないために、日頃からの政治の役割が重要なんだと思います。

そして、本当に困ったときに支えることができる関係が大切です。

私もそのことに気が付くまでに長い時間と経験を要しました。

私は経験を生かして、これからも一人でも多くの皆様の声をかたちにしていく活発な活動をしていきたいと思っています。

例えば、これまでの活動に加えて、SNSを毎日更新したり、自分から地域の皆様の近くに出向こうと市内 各所の公園をお借りして「あおぞら対話集会」を定期的で開催したり、若年層向けにインスタライブを開催したり、様々な世代の方々のご意見を聞けるような活動を広げてます。

これからも、大好きな市川市に暮らす皆様のお力になれるよう汗をかいて参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はもこのような貴重な機会をいただきました。心から感謝を申し上げましてマイクを置かせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

